

今月は物語文の読解力の身につけ方について説明します。

物語文の読解では、場面をしっかりとらえ、登場人物の心情を読み取ることが求められます。また、その物語の主題についても理解することが大切です。

まず、場面のとらえ方について説明していきます。物語文を読むときには、「いつ」「どこで」「誰が」「どうした」かを意識しましょう。場面はこの4つの要素で構成されています。つまり、時間、場所、登場人物、出来事に注目します。文章の初めの部分を読むときには、ゆっくりと丁寧に読んで、頭の中で登場人物の関係を整理しながら読むようにします。登場人物がたくさん出てくる文章では、人物関係をメモしながら読むとよいでしょう。

この場面を構成する4つの要素は、物語が進むにつれて変化していきます。時間や場所が変化したり、新しい登場人物が出てきたり、新たな出来事が起こったところで、場面が変化します。説明・論説文で意味段落を意識して読んだように、物語文では場面の展開を意識して読めるようになることが大切になります。

そして、それぞれの場面の中で、「出来事」→「心情」→「行動」という流れを押さえます。物語文の読解問題では、心情の説明問題がよく出題されます。登場人物の心情を理解しながら文章を読めるようになることが、入試問題を攻略する鍵となります。物語の中では、ある出来事が起こり、その出来事によって登場人物に心情が生まれます。その心情が、行動や動作となって表れます。この「出来事」→「心情」→「行動」という流れが繰り返され、物語が進んでいきます。また、会話の流れにも気をつけるようにしてください。その会話文がどういう意図で発言され、それを聞いた人物がどう受け止めて、どう返しているかを考えながら読んでみてください。

これまでに述べてきたことを身につけるためには、お子様に物語のあらすじを口頭で説明させるようにするのが効果的です。「出来事」→「心情」→「行動」に注目してあらすじをとらえ、それを説明させる練習を繰り返し行っていけば、自分で物語を読んでいくときにも、「出来事」→「心情」→「行動」という流れを意識できるようになっていきます。最後に物語の主題のとらえ方について説明します。物語文の作者のメッセージを読み取っていくことは、問題を解く上で重要なポイントとなります。主題を読み取るには、「変化」に注目するのがコツです。ある出来事をきっかけとして、物語の前半と後半で主人公の考え方や心情に変化があったとします。その変化に注目すると、主題が見えてくることがよくあります。たとえば、初めはうまくいっていなかった親子関係が、何らかの出来事がきっかけとなって好転したとします。そのような文章は親子の愛情や絆をテーマとして書かれた物語なのだと理解できます。物語文を読み終えたときに、必ず主題を考えるようにしましょう。主題を意識できていないと、設問を解くときに間違った方向に考えてしまったり、記述式の問題で焦点のぼやけた答案を書いてしまう可能性があるので注意が必要です。

最後に、各回のポイントをあげておきます。

第7回

今回は心情説明の記述を学習します。心情の記述では、「きっかけとなる出来事」と「心情」の2ポイントをまとめるようにします。「きっかけとなる出来事」から考えた方がよいか、「心情」そのものから考えた方がよいかは、傍線が引かれている部分によって決まります。今回の授業で学びとってほしいと思います。

第8回

今回は前回に引き続き心情説明の記述を学習します。傍線前後の会話文や、心情を類推するために重要になる行動に注目して、的確な解答を仕上げていく練習をしていきます。かなり難しい問題を扱いますが、しっかり考え抜いてほしいと思います。

第9回

今回は物語文における理由説明の記述を学習します。物語文の理由説明問題の大半は、心情に関わるもので、「きっかけ」「心情」「行動」が因果関係でつながっている点に注目して解いていきます。心情がらみではない問題は、事実関係をおさえ、因果関係をとらえるようにします。

第10回

今回は西大和学園中の入試問題研究を行います。60分で問題を解き、解説動画を見るようにしてください。はじめに問題全体を見て、どの問題から解き始めるか、戦略をたてましょう。大問3の段落整序の問題は、毎年出題される、西大和学園の特徴的な問題です。この設問を失点しないことが合否の鍵となります。

web 教室◆日能研からのお知らせ 4月号 6年灘選抜 web 選抜算数

4月からいよいよ小学校でも6年生に進級しましたね。学習のペースはしっかりとつかんで取り組めていますか。この講座は基本的な内容がしっかりと定着した上で、さらに発展的な内容を身につけることを目的にした講座となります。基本の徹底を大切にして、取り組むようにしてください。

動画の構成としては、まずは〔重要問題〕が各回10題程度収録されています。〔重要問題〕はまず自力で取り組んでください。そのとき、ノートには式や考え方をかいて、整理をしながら取り組みましょう。その後、答え合わせをして、まちがえた問題（できなかった問題）は必ず動画を見ながら解法の手がかりとなる考え方を習得してください。できれば、できた問題も解法の整理をするために、動画を見ることをおすすめします。〔練成問題〕は、〔重要問題〕から派生した問題を中心に収録しています。このうち、発展的な内容を扱うタイプのうち、特に重要なものを動画で扱っていますので、どんどんチャレンジしていきましょう。

4月は、入試では得点源としたい、「文章題」「割合」の分野に取り組めます。各回の学習の目安は以下の通りです。

◆第7回 場合の数

場合の数は苦手とする生徒が多い単元です。まずは、基本的な解法を定着させて得点力を上げていきましょう。

①〔重要問題〕

①ーカード並べ

「**0**」のカードがある」「同じカードが複数ある」ときは注意が必要です。並べ方ではなくて、できる整数であることを確認しておきましょう。

②ーサイコロ問題

サイコロは、場合の数では、よくテーマになる道具です。慣れておきましょう。

③ー複数の要素

同じ要素が複数あるパターンの問題です。考え方をしっかりと身につけておきましょう。

④ーできる数の和

3けたの数で考えるのではなく、位ごとに和を考えていくことがポイントです。

⑤, ⑥, ⑦ー条件つき順列

条件が厳しいということは、場合の数は少ないということです。しっかりと調べ上げましょう。

⑧ーじゃんけんの問題

じゃんけんも、場合の数では、よくテーマになる道具です。慣れておきましょう。

⑨ー道順

交差点ごとに、何通りの行き方があるかをていねいに調べていきましょう。

⑩ー並べ方

「取り出す」⇒「並べる」の2段階があることを理解して取り組みましょう。

⑪ー色ぬり

「色の数」よりも「場所の数」が多いときは、同じ色を複数の場所にぬることになります。どこどこに同じ色をぬるのかを考えていきましょう。

⑫ー長方形の数

たて2本、横2本を選ぶと、自動的に長方形ができます。この考え方を理解しましょう。

②〔練成問題〕

練成問題では、いくつか選択して動画で扱っています。その問題についてはしっかりと理解をしましょう。余裕があれば、残りの問題にも取り組んでください。ただし、理解には段階があります。時期を経て再び扱う問題もあるので、全部解かないといけないと思う必要はありません。

◆第8回 文章題

文章題には定番の解法があります。この問題は、こういったアプローチで取り組んでいこうというイメージをもって問題を解いていきましょう。様々な分野と融合させながら、出題されることも多いです。

①〔重要問題〕

①, ②ー分配算

何を基準（多くは基準を①とする）にするのかを明確にしましょう。その上で、端数の処理をしっかりとしていこう。

③, ④ーつるかめ算

つるかめ算の基本的な考え方は、「極端な場合を考えて、実際との差に着目する」ことです。表や面積図などのツールを使いながら、取り組んでいこう。

⑤, ⑥ー消去算

まずは、問題文にかかっている条件を式にあらわすところからスタートしていきましょう。「(数が) そろっていないなら、そろえる！」ことが大切です。

⑦, ⑧ー過不足算

「余り」「不足」はどこからくるのか？これを明確にすることで、方針がたちます。差に注目しながら取り組んでいきましょう。

⑨, ⑩ー平均算

平均算の大きな方針としては、①平均ではなく、「合計」に着目する。②平らに均す

ことをイメージした面積図を利用する。どちらも大切なので、しっかりと取り組んでおきましょう。

②〔練成問題〕

練成問題では、いくつか選択して動画で扱っています。その問題についてはしっかりと理解をしましょう。余裕があれば、残りの問題にも取り組んでください。ただし、理解には段階があります。時期を経て再び扱う問題もあるので、全部解かないといけないと思う必要はありません。

◆第9回 割合と比 I

「割合」の問題を解くにあたって、大切なことは、①基準を明確にする ②「割合の世界」と「現実世界」とを区別して考えていく ことです。入試では得点源にしたい单元ですので、早めに定着をはかりましょう。

①〔重要問題〕

①, ②, ③ー割合の利用

「もとになる数は？」文章にかかれた状況をおさえながら、立式していきましょう。

④ー比の利用

文章を読んで、条件を整理していく良問です。箱の種類は3種類であることを表にまとめしていくことで、解法の糸口が見えてきます。

⑤, ⑥ー比の利用

文章にかかれている条件を式にあらわし、それを比の関係になおすことはできましたか？基本的な、「逆比」「連比」などの確認もおきましょう。

⑦, ⑧, ⑨ー相当算

相当算の基本は線分図です。問題にかかれている条件の基準は何かを明確にしながら取り組みましょう。

⑩, ⑪ー割合の応用

ここでは、「式のあつかい」にも慣れていきましょう。「比」と「実数」が混在しますが、落ち着いて取り組みましょう。

⑫, ⑬ー倍数算

倍数算には、「和一定の倍数算」「差一定の倍数算」「倍数変化算」がありますね。問題を読んだ段階で、どのパターンか理解できますか。それがわかれば、解法も思いつはずですね。

②〔練成問題〕

練成問題では、いくつか選択して動画で扱っています。その問題についてはしっかりと理解をしましょう。余裕があれば、残りの問題にも取り組んでください。ただし、理解には段階があります。時期を経て再び扱う問題もあるので、全部解かないといけないと思う必要はありません。

◆第10回 割合と比Ⅱ

今回は「仕事算」「ニュートン算」がテーマです。一方的な作業のときは「仕事算」、双方向の作業のときは「ニュートン算」となります。特に、「ニュートン算」は理解が難しいと思いますので、しっかりと練習を積んでください。

①〔重要問題〕

①～④ー仕事算

仕事全体をいくつに設定しますか？文章に具体的にかいていないので、皆さんで設定してください。「1」に設定してもよいですし、最小公倍数に設定してもかまいません。大切なことは、一度決めた設定は途中で変更しないこと。あとは、状況をていねいにおさえながら取り組んでいきましょう。

⑤ーニュートン算①

はじめに並んでいる人数も、1分間あたりの増加量も具体的に分かっています。

⑥、⑦ーニュートン算②

はじめに入っている量のみ、具体的に分かっています。ポンプ1台と2台のときのちがいに注目して取り組みましょう。

⑧ーニュートン算③

はじめに並んでいる生徒数は分かっていますが、1分間あたりの増加量が分かっています。入場窓口が6つのときと8つのときのちがいに注目して取り組みましょう。

⑨ーニュートン算④

はじめに入っている水の量は分かっていますが、1分間あたりにくみ出す水の量が具体的に分かっています。1分間あたりにくみ出す水の量が13Lのときと10Lのときのちがいに注目して取り組みましょう。

⑩、⑪ーニュートン算⑤

はじめの量も、増える量も、減る量も分かっています。設定されていないということは、自分で設定してもよいのです。線分図や水そう図を使用して、様子を明らかにしていきましょう。

⑫ーニュートン算⑥

はじめの量も、増える量も、減る量も分かっています。基本をしっかりとおさえ、増える量、減る量の関係をおさえましょう。問題文にあわせて状況を整理していきま

しょう。

②〔練成問題〕

練成問題では、いくつか選択して動画で扱っています。その問題についてはしっかりと理解をしましょう。余裕があれば、残りの問題にも取り組んでください。ただし、理解には段階があります。時期を経て再び扱う問題もあるので、全部解かないといけないと思う必要はありません。

算数強化ツールにつきましては、以下ご参照ください。

◆第7回（25回…括弧内は以下同） 割合に関する文章題

和差に関する文章題が色々と取り上げられています。**6**など定番の問題もありますが、前回に引き続き、問題に載っている情報を整理する方法も重要になります。

◆第8回（26回） 割合と比に関する問題

割合と比に関する問題となります。意外と**7**、**8**は難しいかもしれません。また、**13**は機械的に処理するしかなさそうです。

解き方ですが、必ずしも線分図ではなく、①等を使った比例式で処理するのもいいと思います。

◆第9回（27回） 濃さに関する問題

濃さに関する問題です。**5**、**10**は範囲を考える問題です。**7**は、等しい量を交換するタイプはよく見ますが、ここでは交換する量が2:1となっています。**12**、**13**は似た要素を含んでいます。**15**は上手に整理をしないとかなり難しくなるでしょう。

解き方として、面積図にこだわる必要はなく、てんびん法も使えます。

◆第10回（28回） 売買に関する問題

売買に関する問題となっていますが、必ずしも、売り上げ、利益に注目する問題ばかりではありません。**6**は、ひたすら調べていくだけの問題で、表等にまとめればいいでしょう。**7**は複雑な料金プランを比較する問題です。消費税の問題も**9**、**11**とありますが、今は税率が10%になっています。**10**は一種のつるかめ算なのですが、結構複雑で難しいでしょう。

算数強化ツールに関しては、動画は「応用」の部分を扱いますが、少し引っかかる場所が多いと感じた場合は、「基礎」や「共通」の部分も使って、練習を積むことをお奨めします。

難度の高いテキスト2種類での学習となりますので、問題量が多い場合、時間がかかる場合は重点単元強化テキストの学習を優先してください。